

J-POSTL

よくある質問

Q. ポートフォリオの目的は何ですか。

A. 教職履修生が、教職課程や実習先で学んだことを継続的に記録し振り返ること、自己の長所や短所に気づき、教職に対する気づきや学びを促すことです。

Q. J-POSTL (A)と J-POSTL (B)の違いは何ですか。

A. J-POSTL (A)に、振り返りのための授業力自己評価項目リスト 100 項目の解説資料が加わったものが J-POSTL(B)です。本資料では、100 項目の can-do 記述文に対して、それぞれ具体的な指導例や活動例が示されています。これらの具体例は、比較的取り組みやすい例から難易度の高い例へと配列されているので、授業力自己評価項目で自己の達成度を評価する際に参考にできます。

Q. ポートフォリオは、履修生に、最初から順番に全て記入してもらう必要がありますか。

A. ポートフォリオは、ある程度一貫性をもって構成されていますが、既存のカリキュラムで扱う内容に合わせて、適宜取捨選択してご利用ください。また、扱う順番を変えてもよいでしょう。例えば、既に教職課程の別の授業において、教職課程や教育実習に対する期待や不安などを記述させていけば、3 部構成のうち、(1) 自分自身については扱わず、(2) 振り返りのための授業力自己評価項目リストと(3) 個人学習・実践記録表のみ使用することができます。

Q. 振り返りのための授業力自己評価項目リストの 100 項目は多すぎませんか。

A. J-POSTL の元になった EPOSTL では 195 項目ありましたが、日本に文脈化するにあたり、100 項目まで減らしました。J-POSTL の説明では、教育履修生への試行調査の目的のため、3 回振り返りを行うことになってはいますが、実際には全ての can-do 記述文を、一度に扱う必要はありません。また、100 項目全てを扱わなくてもよいでしょう。例えば、教職課程の授業内容に合わせて、リーディングに関する項目をいくつか取り上げ、履修生同士で具体的な場面や活動例を話し合わせたり、模擬授業に関連する項目をいくつか取り上げ、模擬授業後にそれらの項目に基づいて話し合わせることができます。

Q. 振り返りのための授業力自己評価項目リストにおいて、いくつかの can-do 記述文の表現はあいまいではありませんか。

A. can-do 記述文は、それぞれの意味を具体的に履修生に考えてもらうことが重

要です。例えば、授業でいくつかの記述文を取り上げ、具体的な場面や活動例を履修生同士で話し合わせてもよいでしょう。なお、J-POSTL (B)では、資料として各項目の具体的な場面や活動例が解説されています。

Q. 振り返りのための授業力自己評価項目リストで、履修生が未経験の項目について、自己評価をすることは難しくありませんか。

A. 未経験の項目についても、実習前に考えてみることは重要です。「～できる」ではなく、「～の仕方について準備ができていると思う」と言い換えて、自己評価をさせるとよいでしょう。

Q. 振り返りのための授業力自己評価項目の評価は、なぜ矢印になっているのですか。

A. 教師の成長は生涯を通して行われると考え、教職課程を終えても、資質・能力を伸ばしていく必要があるからです。

Q. 振り返りのための授業力自己評価項目の5段階の基準は、履修生によって解釈が異なるのではないのでしょうか。

A. 全ての履修生が同じ基準で、授業力を自己評価することは困難です。一人ひとりが、それぞれの基準で、自分の授業力を定期的に振り返り、可視化して、成長していくことが重要です。

Q. 振り返りのための授業力自己評価項目リストの発展的な使い方はありますか。

A. 教育実習前に、履修者が実習で焦点を当てたい項目を5~10項目選択し、実習中にそれらの項目に焦点を当てて、授業観察をしたり、授業計画を立てたり、授業の振り返りを行うことができます。項目を指導教諭に示して、項目に基づいて助言をもらったり、話し合ってもよいでしょう。

Q. 個人・学習記録表を記入させる目的は何ですか。

A. 主たる目的は、振り返りのための授業力自己評価項目について、履修生の自己評価の判断の根拠や、判断が適切であるか否かを示すものです。

Q. ポートフォリオは成績評価に使われますか。

A. ポートフォリオを成績評価のために用いることは望ましくありません。ポートフォリオは履修生が責任をもって管理・活用すべきものです。ただし、履修生へポートフォリオの活用を促し、一人ひとりの履修生の成長を把握するため

に必要な応じて教員が確認し、フィードバックを行うことはよいでしょう。

Q. 教員はどのような姿勢で学生のポートフォリオに対応しますか。

A. 教員がポートフォリオを確認するかどうか、あるいはどのように確認し、フィードバックを行うかは、各教員の目的により様々な方法が考えられます。例えば、教員が振り返りのための授業力自己評価項目リストの数項目を確認して、履修者のある領域の授業力の現状や成長を把握し、教職の授業内容の検討資料として使用できます。あるいは、履修生に数項目について話し合わせ、履修生同士でフィードバックをさせることもできます。

Q. ポートフォリオを活用するのは、教職課程履修期間中だけですか。

A. 本ポートフォリオは教職課程履修後、初任者の段階まで使用することができます。J-POSTL の次の段階として、現在「現職言語教員のポートフォリオ」(J-POTL) を開発中です。